

G7への提言

教育・「教育におけるイノベーション」もESDですすめる

一般社団法人 地域連携プラットフォーム

共同代表理事 長岡素彦

こう考える

G7サミットおよびG7サミット倉敷教育大臣会合で議論された「教育におけるイノベーション」や「21世紀型スキル(能力)」を、SDGsにもとづくESDを中心に推進することを提言する。

そして、ソーシャルイノベーション教育も含む「教育におけるイノベーション」が、「すべての人に包括的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を推進する」(SDGs第4項)ことをめざし、「ESDおよび持続可能な開発への貢献の理解のための多様な教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得」(SDGs第4項7)することが可能となるように努めることを求める。

・Kurashiki Declaration(G7サミット倉敷教育大臣会合宣言)に対して

同宣言には国際社会の平和を守り、持続可能な発展を促進するためにもESDとESDグローバル・アクション・プログラムをサポートするとある。「技術革新に対応した教育」(Education that Accommodates Technological Advance)を推進していくことも明記されている。

したがって、平和や持続可能な発展、そして、情報を教育によって行うユネスコのメディア情報リテラシー(MIL)、MILグローバル・アクション・プログラム、国連文明の同盟もサポートし、実現すべきである。

・日本政府に対して

日本政府はSDGs、G7宣言、及び、首相のG7、2030アジェンダ・SDGsに対するメッセージ・方針に従い、G7教育宣言の指針の実施をESDを基本にESD国内実施計画(国内グローバル・アクション・プログラム)を中心にして地域と世界を持続可能にするために、すべての人に包括的かつ公平に実施するよう提言する。

こう行動する

私たちは、グローバル・アクション・プログラム及び「グローバル・アクション・プログラム実施計画」(第2次ESD国内実施計画)とともに、これらに市民社会、CSOが提言した内容を特定の人々だけでなく、すべての人々、組織とマルチステークホルダーで、ESDと教育をすすめていく。

全体 市民の伊勢志摩サミット提言

<http://tokaicn.iimdo.com>

宣言 G7各国首脳および市民への提言

「持続可能な開発のための教育 (ESD) によるSDGsの目標達成」

(参考)

Kurashiki Declaration(G7サミット倉敷教育大臣会合宣言)

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/05/15/1370953_02.pdf

G7への首相メッセージ

「自由、民主主義、法の支配、人権といった基本的価値を共有するG7は、これらの課題に、グローバルな視点で、将来を見据えながら、解決に向けた最も適切な道筋を示さなければなりません。(以下略)」

SDGsへの首相メッセージ

「2030アジェンダは歴史的。各国は、支援する国・される国という関係でなく、同じ立場で参加すべき。誰も置き去りにしない。この高い理念のもと、我が国はあらゆる場所のあらゆる貧困をなくす。あらゆる年代の健康。積極的平和主義のもと、日本は世界の平和と繁栄に貢献する。(以下略)」

SDGs

*SDGs-持続可能な開発目標は、2015年に国連で150以上の政府が議決した、人間、地球及び繁栄のための行動計画の目標(17の目標と169のターゲット)です。今後の国際社会ではこのSDGsによって計画が立てられ、実行されます。

目標1: 貧困をなくそう

目標2: 飢餓をゼロに

目標3:すべての人に健康と福祉を

目標4: 質の高い教育をみんなに

目標4-7 持続可能な開発のための教育

目標5: ジェンダー平等を実現しよう

目標6: 安全な水とトイレをみんなに

目標7: エネルギーをみんなに そしてクリーンに

目標8: 働きがいも経済成長も

目標9: 産業と技術革新の基盤をつくろう

目標10: 人や国の不平等をなくそう

目標11:住み続けられるまちづくりを

目標12: つくる責任つかう責任

目標13: 気候変動に具体的な対策を

目標14: 海の豊かさを守ろう

目標15: 陸の豊かさも守ろう

目標16: 平和と公正をすべての人に

目標17: パートナーシップで目標を達成しよう

参考

長岡素彦,2016,東日本大震災から未来をつくるESD,市民社会からの挑戦—ESD推進12年間の軌跡,持続可能な開発のための教育推進会議

長岡素彦,2016,ESDと防災・減災—ESD・教育による持続可能な防災・減災 SDGs,国連世界防災会議フォローアップ「仙台防災未来フォーラム」

長岡素彦,2015,福島での教育復興と持続可能な復興と発展を目指す「ふるさと未来創造 ESD」-これまでのESDと本プロジェクトの意義,ユネスコESD福島ニュース No.1

長岡素彦,2013,ESDと復興 震災体験をいかした未来をつくる教育・ESD,関係性の教育学 Vol. 13

長岡素彦,2009,学び合い、つながる ESD 持続可能な開発のための教育—福祉教育・ボランティア学習とESDの実践者の立場から,日本福祉教育・ボランティア学習学会年報

長岡素彦,2006,まち育てとしての持続可能な開発のための教育(ESD) - こどもと地球の未来のための「学び合い」によるネットワーク-,「住まい・まち学習」実践報告・論文集7

長岡素彦,2011,複合情報環境における関係性とリテラシー 仮想社会の選択的人間関係を越えて,関係性の教育学 Vol. 10

UN, 2003,GLOCOM, on behalf of Japan NGO Coordination Committee for WSIS.長岡素彦他 HIFJapan2016主催団体(JCC-DRR他),Humanitarian Innovation Forum Japan 2016 レポート

未来の学びと持続可能な開発・発展研究会 会員

目的 持続可能な開発・発展と教育の調査研究を行う

研究内容 ・SDGsと地域・自治体の計画の関係の調査研究

・持続可能な開発・発展を担う教育としてのPBLの調査研究

研究会・学会セッション等

・月例研究会 ・学会等の発表、セッション